

令和7年度 大阪市立阿倍野防災センター事業報告書

施設概要

施設名	大阪市立阿倍野防災センター
所在地	大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目13番23号
団体名	一般財団法人大阪消防振興協会、株式会社ノムラメディアス大阪事業所、共同事業体
代表者指定管理者	一般財団法人大阪消防振興協会
代表者	一般財団法人大阪消防振興協会 理事長 小西 一 功
主たる事務所の所在地	大阪市西区江戸堀1丁目24番18号

1 指定管理業務の実施状況

(1) 管理運営方針

阿倍野防災センター事業は、市民や企業の防災担当者等に災害時に必要な知識と技術を提供し、災害による被害の軽減につなげることが目的であり、共同事業体のそれぞれの専門性とノウハウのすべてを結集し、消防局が運営方針に掲げる市民が安心して暮らせる「災害に強いまち・安全な都市」の実現に向け、ともに取り組むことを方針としています。

(2) 職員の配置状況

ア 一般財団法人大阪消防振興協会

体験学習・研修訓練・企画広報・施設管理を効率的に運営できる職員を下記のとおり配置しました。

(ア) 防災センター長（協会職員）	1名
(イ) 副防災センター長（協会職員）	1名
(ウ) 事務総括（協会職員）	1名
(エ) 管理業務担当者（協会職員）	1名
(オ) 防災学習事業担当（協会職員）	1名
(カ) 防災研修事業担当（協会職員）	1名
(キ) 防災研修事業担当補助（協会職員）	1名
(ク) アシスタントコーチ（協会職員）	12名

イ 株式会社ノムラメディアス大阪事業所

展示設備の定期保守点検や故障等の不具合発生時に、設備機器専門スタッフのうち必要人員を派遣し対応しました。

(3) 施設管理状況

ア 建物管理

建物施設及び防災センター周辺の維持管理については、年度協定書に基づき適正に管理しました。

イ 体験施設管理

年度協定書に基づく定期点検及び日常点検を実施しましたが、重大な不具合等は、ありませんでした。

ウ 関係機関との連携

(ア) 事務担当者会議等において、複合施設あべのフォルサ全体の施設管理として、連携強化に努めました。

(イ) 施設管理等の連携及び防火・防災対策として実施した自衛消防訓練【令和7年12月24日(火)及び令和8年3月3日(月)】において、防災活動の専門家として指導、アドバイスをを行いました。

(ウ) あべのフォルサ合同で連携し毎月1回庁舎周辺の清掃活動を行い、環境改善による職場づくり、まちづくりに努めました。

(エ) 防災関係機関（海上保安庁・自衛隊・気象庁等）とのネットワークを構築し連携強化に努めました。

(オ) 阿倍野区金塚連合振興町会の協力のもと催しなどについて連携を図りました。

(カ) 障害者団体とハンディキャップのある来館者の対応について連携を図りました。

(キ) 技能実習生等受入事業者と多言語対応などアテンド要領について、連携を図りました。

2 感染症対策

(1) 防災体験学習エリア

新型コロナウイルスは、令和5年5月8日から感染法上「5類」に引き下げられたことにより引き続き、手指消毒は来館者の任意としました。

(2) 防災研修訓練エリア

手指消毒について、前記防災体験学習エリア同様に研修者の任意としました。

3-1 防災体験学習エリア利用状況

(1) 開館日数 297 日 (内臨時開館 3 日間)

(2) 休館日数 68 日

(3) 来館者数 70,674 人

月別来館者数

月	来館者数(人)	開館日数(日)
4	4,346	24
5	6,336	26
6	6,502	25
7	6,368	25
8	8,587	29
9	7,413	25
10	3,371	25
11	6,923	25
12	4,500	22
1	4,630	22
2	5,065	23
3	6,633	26
計	70,674	297

一日の稼働時間 8 時間

延べ稼働時間 2,376 時間

一日平均利用者 237.9 人

一時間平均利用者 29.7 人

※令和7年10月9日(木)～10月21日(火)の12日間、起震装置更新業務に係る撤去作業のため、通常コース体験及びフリーエリア入場を停止し代替展示を実施。

また、起震装置更新業務に伴い、令和7年10月9日(木)から令和9年3月19日(予定)まで起震装置による震度7体験を停止している。

3-2 防災研修訓練エリア利用状況

- (1) 開場日数 221 日
(2) 来場者数 17,329 人

月別来場者数

月	来場者数(人)	開場日数(日)
4	1,763	29
5	2,872	27
6	1,902	30
7	1,662	27
8	3,050	28
9	2,055	24
10	0	0
11	0	0
12	0	0
1	0	0
2	1,925	26
3	2,100	30
計	17,329	221

甲種防火管理新規講習	4,859 人
防火・防災新規講習	4,549 人
甲種防火管理再講習	0 人
教育担当者講習	0 人
自衛消防業務新規講習	4,499 人
自衛消防業務再講習	344 人
普通救命講習	549 人
消防局事業	0 人
イベント等	2,529 人
使用許可に係る研修会等	0 人
防災設備室等利用	0 人

※10 月～1 月は阿倍野防災センター空調工事に伴い、研修室の使用停止。

4 成果指標の達成状況

大阪市立阿倍野防災センター管理業務基本協定書第3条に基づく成果指標の達成状況については次のとおりでした。

成果指標	達成度
防災体験学習エリア及び研修訓練エリア 体験者のうち、「助かる力、助ける力が 身に付くような知識技術を習得すること ができた」と答えた体験者の割合を全体 体験者の80%以上に保つこと。	98.3%
	※アンケート回答者数 3,023 人のうち 『思う(2,127 人)、やや思う(844 人)』と 答えた人合計 2,971 人

上記達成度のとおり、来館者からは非常に高評価を頂きました。

5 実施事業・自主事業

(1) 主なイベントの開催

ア 「キッズ&ユース・ファイアーイベント」

将来の地域防災を担う人材の育成を図ることを目的に開催しました。

令和7年5月3日～5日 計1,230人参加

イ VR自由研究大会「大阪市大会」

コンピューターによって創り出された仮想的な空間などを現実であるかのような疑似体験できる仕組み（VR）と自分で防災のテーマを設定し、それを追求していく探求学習で、問題解決からまとめ方までのスキルを磨くこと（自由研究）により、自分の命は自分で守り、かつ防災意識の向上を図ることを学んでいただきました。

令和7年5月3日

（「キッズ&ユースファイアーイベント」内で実施） 計26人参加

ウ 「パパ・ママ応急手当教室」

育児中のお父さん、お母さん等を対象に心肺蘇生AEDの使い方、異物誤飲、止血などの応急手当の普及に努めました。

令和7年6月21日、9月14日、11月29日

令和8年1月25日、3月14日 計59人参加

エ 「防災クイズチャレンジ」

防災クイズに広く参加してもらい、来館者に防災の知識を深めてもらいました。

令和7年6月21日～22日 計169人参加

オ 「災害と衛生環境についての防災講座」

災害発生時に国や市町村からの災害支援品だけでは賅えきれない状況も想定されるため、「避難生活」が必要となった際に、日用品メーカーの花王（株）の協力のもと、避難時における身の回りの生活や”備え”についての工夫などを紹介し、いざという時の暮らしに役立つ情報を来館者に伝え、啓発していくことを目的とし実施しました。

令和7年7月20日 18人参加

カ 「ローリングストック推進の防災講話&防災クッキング」

災害が起こった時に国や市町村からの災害支援品だけでは賅えきれない状況も想定されるため、カルビー（株）と森永乳業（株）の協力のもと、毎日の暮らしの中、自宅でできるローリングストックの考え方を来館者に伝え、啓発していくことを目的とし実施しました。

令和7年7月26日 36人参加

キ 「あべのタスカル・サマーイベント 2025」

消防局、自衛隊、海上保安庁、大阪管区气象台、環境局、阿倍野区金塚連合振興町会の協力のもとコラボイベントを開催し、各機関の最前線での活動状況等の理解を深めてを深めていただきました。

令和7年8月2日～3日 計2,274人参加

ク 「あべの天王寺サマーキャンパス 2025」

イベント内の「リアル体験プログラム」に協力し100人の体験を受け入れました。

令和7年8月23日～24日 計100人参加

ケ 「知ってますか？災害伝えるダイヤル171利用法」

公衆電話のかけ方、緊急通報（110・119）のかけ方、災害用伝言ダイヤル（171）の使い方を周知することにより、防災意識の高揚を図りました。

令和7年9月27日 24人参加

コ 「あべの・防災サバイバル鬼ごっこ 2026」

「早歩きで逃げる」鬼ごっこ、参加者全員が最後まで生き残ることをミッションとして伝え、災害時の状況を疑似体験しながら助け合える人間関係の強化を図りました。

令和8年1月31日 100人参加

サ 「大阪の未来を守る 防災×テクノロジー」

「防災の街・大阪」の実現に向け、中学生研究員と産官学医が連携した新たな防災モデルの発表会を開催しました。

令和8年3月26日 12社22人参加

シ 「防火・防災かたりべの会」

元消防職員が、様々な災害活動を通じて得た体験を来館者に語りつなぎ防火・防災について考えてもらう機会を設けました。

合計22回実施 計201人参加

(2) 防災特別展等の開催（休館日を除く）

ア 「防災週間」特別展

9月1日の「防災の日」を中心とした防災週間に合わせて、地震、台風等の自然災害に備えて、防災意識の向上を図りました。

令和7年8月30日～9月5日 期間中来館者数 計1,590人

イ 「シルバーウィーク」特別展

高齢化社会に入り、独居高齢者世帯が増える中で火災や自然災害等から身を守るためのパネル展示や映像を上映し、防火安全対策の普及啓発に努めました。

令和7年9月13日～15日 期間中来館者数 計1,055人

ウ 「防火・防災図画展」

大阪市消防局に優秀・佳作に選ばれた作品を展示し、子供たちの防火防災意識の向上を図りました。

令和7年11月1日～19日 期間中来館者数 計5,256人

エ 「津波防災の日・世界津波の日」特別展

11月5日の「津波防災の日・世界津波の日」にあたり、今後発生することが危惧される南海トラフ巨大地震等に備えて、防災意識の向上を図りました。

令和7年11月1日～7日 期間中来館者数 計1,807人

オ 「ストーブ等の危険を知ろう」特別展

厳冬期を迎えストーブが出火原因の火災が増加する前に、ストーブの危険性を再認識していただくため、パネル展示や映像を上映し火災等の事故防止について考えて頂く機会を設けました。

令和7年12月13日～21日 期間中来館者数 計1,776人

カ 「防災とボランティア週間」特別展

市民の自主防災意識の向上及び防災ボランティア活動の普及を啓発しました。

期間中、NHKによる阪神・淡路大震災30年「1995年1月17日あの日、何が起きたのか」と題し、動画上映と解説やパネル展示を行い、同じような災害が起こったら、いったい何が起きるのか？どんな備えが必要なのか？自分事として考えていただく機会を設けました。

令和8年1月16日～18日 計1,670人参加

キ 「スプレー缶の怖さを知ろう」特別展

身近にあるカセットボンベ等の危険性を認識していただくため、パネル展示と映像を上映し、火災等の事故発生の防止について学習していただきました。

令和8年2月15日～24日 期間中来館者数 計2,746人

ク 能登半島地震パネル展示（常設展示）

令和6年1月16日から能登半島地震、令和7年1月17日から能登半島豪雨パネル展示を実施し、地震及び豪雨の状況と緊急消防援助隊大阪府隊の活動状況について紹介し防災意識の向上を図りました。

ケ 火災の怖さを知ろうパネル展示（定期展示）

最近の特異な火災の発生事例について、予防課調査鑑識の協力を得て紹介し、防災意識の向上を図りました。

(3) 防災センター閉鎖期間中特別イベント

(地震体験装置解体工事に伴う閉鎖)

令和7年10月9日(木)～10月21日(火)12日間、起震装置撤去工事期間中における体験学習エリア代替え展示を実施しました。期間中1,113人の体験があり、土日祝の起震車による地震体験や通常時のコースには無いARゴーグルによる煙体験、垂直式救助袋、公衆電話による119番通報体験などを実施しました。

(4) 第30回防災まちづくり大賞に応募

民間企業の技術とゲーム性を取り入れ、デジタル技術に親和性の高い層に対する新たな防災・減災のアプローチとして展開し、AR技術を活用した体験学習ツール(消防車・消火ゲーム・地震マスター)の連携開発を通じた防災意識の啓発に取り組みについて、第30回防災まちづくり大賞に応募しました。

(5) 報道機関等からの取材対応

ア 報道機関への取材協力

(ア) 6月17日(火) NHK「ほっと関西」

(イ) 9月5日(金) NHK「ほっと関西」

(ウ) 10月3日(金) 産経新聞「チャオ」

(エ) 1月16日(金) NHK「ほっと関西」

4件

イ 情報誌への協力

近畿日本鉄道社内誌、タッチ、JR西日本「おでかけガイド」

じゃらんnet、JAVA.jp

5件

(6) 議会関係及び海外等VIPの対応

ア 4月8日(火) 韓国防災関係職員

イ 5月6日(火) 福井県議会議員

ウ 5月13日(火) 名古屋市防災危機管理局

エ 5月20日(火) 韓国資源ボランティア

オ 7月17日(木) 泉州南消防組合議会

カ 8月1日(金) 栃木県議会議員

キ 8月18日(月) モザンビーク政府

ク 8月20日(水) 熊本県有明広域行政事務組合

ケ 9月4日(木) タイ政府職員 韓国総領事館

コ 9月8日(月) 韓国総領事館

サ 9月11日(木) タイ政府事務局

シ 9月18日(木) 四川省应急管理庁
ス 9月22日(月) UAE 職員 韓国議員
セ 9月23日(火) 韓国消防庁
ソ 10月6日(月) 青森県危機管理室
タ 10月14日(火) 韓国教育庁
チ 10月20日(月) 韓国防災委員
ツ 10月31日(金) 那覇市議会議員
テ 11月6日(木) 富士宮市議会議員
ト 11月8日(土) 三笠市議会議員
ナ 12月1日(月) 韓国消防庁
ニ 12月18日(木) 大阪維新の会市議会議員
ヌ 12月22日(月) 向日市議会議員
ネ 1月15日(木) 日向市議会議員
ノ 1月23日(金) ひたちなか市議会議員

6 収支決算状況（単位：円）

収 入 合 計 (A)		98,590,504
項 目	業 務 委 託 収 入	97,383,638
	自主事業1収入（防災用品販売手数料、その他）	942,206
	自主事業2収入（自動販売機手数料）	264,660
支 出 合 計 (B)		101,962,504
項 目	人 件 費	36,298,092
	物 件 費	65,664,412
	水 道 光 熱 費	11,670,490
	賃 借 料	670
	通 信 費	741,058
	消 耗 品 費	1,241,908
	広 告 宣 伝 費	393,752
	外 注 費	41,892,912
	設 備 ・ 備 品 費	440,676
	そ の 他	9,282,946
	(う ち 修 繕 費)	(159,940)

7 その他

(1) サービスの向上

ア 体験コースの充実

(ア) 9コースから4コースに見直しました。

60分コース（新A・新C）を予約の基本とした場合、スタート時間を30分おきに設定しました。

90分コース（新B）実施日は、60分コース・30分コースと組み合わせることで、体験コース参加者の最大化を図りました。また、時間の限られている方向けの30分コース（新D）も行いました。

すべてのコースについて、1グループ最大30名（小学校団体40名）を基本としました。

1グループに1名以上のコーチングスタッフが同行し、体験学習をサポートしました体験コーナーでは、コーチングスタッフが専門的な技術指導を行うとともに、実体験事例等に基づいた指導を行いました。

(イ) 小中学生を対象とした新Cコース内振り返り学習の充実コーチングスタッフが体験を終了した小中学生と一緒に体験学習の内容を振り返り、質問等に答えました。

(ウ) 障がい者や外国人の対応

日本語の他 10 か国の文字や絵が入った A4 案内版（要約マニュアル）や点字の資料を作成し、手話と翻訳機などを併用することにより体験しやすくしました。

また、各コーナーに多言語（日本語・英語・中国語・韓国語）での案内版を設置しました。

(エ) 地震体験（令和 7 年 10 月 7 日まで実施）

㊦ 地震体験前の説明をビデオ映像と解説とし、より理解しやすくしました。

㊧ ビデオ映像に車いすが揺れている場面などを挿入することにより、車いすの方にも体験しやすくしました。

㊨ 車いすを簡易固定することにより、より安全に体験可能としました。

㊩ 聴覚障害者などや外国人に対応するため、文字や写真による案内を実施し体験しやすくしました。

(オ) 備えを学ぶコーナー内の 119 番通報体験に日本語の他 9 か国語の案内資料を設置し多言語対応しました。

(カ) 防災情報スクエア内に日本語の他 9 か国語の案内資料を設置し多言語対応しました。

イ オンライン予約の実施

体験予約を電話以外にオンライン（LINE 予約）での受付を開始しました。

ウ 予約申込書のメール受付予約申込書を従来の FAX、郵送に加えメールでも受付しました。

エ めざせ！地震マスター

『地震発生時』『地震発生直後』『地震発生後』『避難前の会議』の 4 つのシーンの絵（パネル）に携帯電話をかざし、地震の際に気を付けるべき「防災ポイント」を発見することにより、関連する防災知識について学んでいただきました。

オ AR 消火ゲーム

消火器の使い方に興味・関心を持っていただくことを目的として AR 消火ゲームを設置し、消火器の使い方や初期消火の重要性について啓発しました。

カ タスカル AR

キッズ消防パークに、防火防災に興味・関心を持っていただくことを目的としてあべのタスカル AR アプリケーション（拡張現実）の取得をパネル案内し、AR セクション（顔出しパネル）を設置しました。

キ 避難器具の展示・体験

備えを学ぶコーナーに、救助袋の斜降式と垂直式（1/4 サイズ）と取り扱い説明パネ

ルを設置し避難器具への理解を深めていただきました。また、避難はしごの操作方法の実演や垂直式救助袋の模擬体験コーナーも設置しました。

ク ホームページ内にVR・3DCGを使用して、阿倍野防災センター内をホームページを通して見学していただけるようにしました。

ケ 内水氾濫のDVD「内水氾濫の予備知識」を救護の部屋などで上映し、来館者に学習していただきました。

コ 体験記録カードの発行

来館者の利用促進策として体験記録カードを発行し、来館時にもらえるスタンプが5個貯まった方に記念品を贈呈しました。

サ 「タスカルぶんこ」と称して、防災に関する参考本や絵本などを置き、広く来館者に読んで頂きました。

シ ご意見箱を設置し、来館者の意見・要望などを受け、サービスの向上に努めました。

ス アンケートの意見・要望に基づき、サービスの向上に努めました。

セ 指導員全員が防災士の資格を有しており、市民からの質問などに対応しました。

ソ 歩行困難などの来館者に対して、車椅子の貸し出しを行いました。

タ 夏休み等来館者が多数見込まれる期間に臨時開館を行い、来館者のニーズに対応しました。

(2) 管理経費の節減

来館者の状況により、照明器具や空調機のこまめな電源オフに努め、消費電力の節約に努めました。

(3) 施設内安全管理及び衛生管理の向上

ア 手指消毒液容器を各エリアに設置しました。

イ 施設内の各機器は定期的に消毒を行いました。

ウ 抗菌・抗ウイルスコーティング済みの機器を適切に管理しました。

エ 空気清浄機3台を運用し施設内の換気等に努めました。

オ 「応急救護コーナー」で使用するネクタイ、タオル等は定期的に洗濯及び消毒を行いました。

カ 障害者目線で、バリアフリー等について点検しました。

(4) 利用者からの苦情・意見等

特記事項なし

(5) 研修実績

ア 人権研修・接遇研修

人権研修は、2回 接遇研修は、2回実施し、全ての職員が受講しました。

イ 教養研修

(ア) アシスタントコーチの技術向上研修を4回実施し技術の向上を図りました。

(イ) 国内での災害発生時には、防災情報の共有化を図りました。

(ウ) 手話教室を定期的開催し、聴覚障がい者へのスムーズな対応が図れるように努めました。

ウ コンプライアンス研修

防災センター長が必要に応じて実施しました。

(6) モニタリングの実施状況

ア コース体験後にアンケートを実施し、コース体験者の満足度等の把握に努めました。

イ ご意見箱を設置し、来館者の意見・要望等を受け満足度の向上に努めました。

(7) 個人情報保護への取組状況等

ア (一財)大阪消防振興協会個人情報保護規程の遵守

イ (一財)大阪消防振興協会個人情報保護規程取扱要綱に基づく事務処理の徹底

ウ 申込書等の個人情報については、事務室の施錠保管庫に適切に保管

エ その他

- ・(一財)大阪消防振興協会コンプライアンス規程及び要綱の制定

(平成25年10月1日)

- ・(一財)大阪消防振興協会内部通報に関する要綱の制定

(平成25年10月1日)

- ・(一財)大阪消防振興協会インターネット及び電子メール適正使用に関する要綱等の制定

(平成25年10月1日)

上記のとおり報告します。

指定管理者	所在地	大阪市西区江戸堀1丁目24番18号
	商号または名称	一般財団法人大阪消防振興協会
	代表者氏名	理事長 小西 一功

	所在地	大阪市浪速区難波中2丁目10番70号
	商号または名称	株式会社ノムラメディアス大阪事業所
	代表者氏名	事業所長 富林 健二

